

八月のテーマ 逆境のときこそ

悩みがあるから前進する

丸山竹秋

毎月第一週に配信する「今週の倫理」では、倫理研究所会長・丸山竹秋（一九二一～一九九九）のこゝとばを掲載します。



え・小島サエキチ

人 生に悩みがあることによつて、その人はさらに前進できる。悩みとは、人なり、集団なり、民族なりの前進、進歩の親である。

家がせまく、古くもなつた。家族が多くて悩みも多い。何とか建てましをしたい。できればべつに家を求めたい。むつかしいけれど、こうした悩みがあれば、つぎのう

つ手が考えられてくる。無駄をはぶき、貯蓄の率を多くする。愚痴をやめて、将来の計画をはつきりさせ、仕事に精をだす。やれるだけのことを、毎日せつせとやつて

のける。これは前からみれば、一段の進歩である。子どもが悪遊びをする。ケンカもやる。かっぱらいもした。注意

をしても、きき目が無い。どうすればよいのか。親の悩みは深刻である。

だが、ここから親の前進が始まるのだ。学校の先生に積極的に質

ねる。先生から、さらに権威ある専門家を紹介してもらおう。子どもは親の心を実演すると教えられた。

親のどこにスキがあるのか。夫婦の気持ちが一歩一致しているか。親は

仕事に打ち込んでやっているか。子どもを一方的に責めているようなところがありはしないか。たしかにある。これではいけない。ま

ず親の生活から建て直した。こうして前進が始まる。病気になる。出費がかさむ。医者にかかっても、はかばかしくない。家庭が暗くなる。悩みはつきない。さて、どうしよう。

病気になる。出費がかさむ。医者にかかっても、はかばかしくない。家庭が暗くなる。悩みはつきない。さて、どうしよう。

病気になる。出費がかさむ。医者にかかっても、はかばかしくない。家庭が暗くなる。悩みはつきない。さて、どうしよう。

病気になる。出費がかさむ。医者にかかっても、はかばかしくない。家庭が暗くなる。悩みはつきない。さて、どうしよう。

病気になる。出費がかさむ。医者にかかっても、はかばかしくない。家庭が暗くなる。悩みはつきない。さて、どうしよう。

病気になる。出費がかさむ。医者にかかっても、はかばかしくない。家庭が暗くなる。悩みはつきない。さて、どうしよう。

病気になる。出費がかさむ。医者にかかっても、はかばかしくない。家庭が暗くなる。悩みはつきない。さて、どうしよう。

病気になる。出費がかさむ。医者にかかっても、はかばかしくない。家庭が暗くなる。悩みはつきない。さて、どうしよう。

病気になる。出費がかさむ。医者にかかっても、はかばかしくない。家庭が暗くなる。悩みはつきない。さて、どうしよう。

病気になる。出費がかさむ。医者にかかっても、はかばかしくない。家庭が暗くなる。悩みはつきない。さて、どうしよう。

くのではなく、これらに正しく対処してゆけば、かならず新しい前途が始まるのである。

自分の、団体の、民族の思うようにならぬところから悩みが生ずる。すべて思い通りに運べば、べつに悩みはないのだ。だが、思い通りになることほど、危険なこと

はない。安住、わがまま、ごうまん、思いあがり、その他……個人的にも、集団的にもそこに進歩は

生まれず、むしろ危険な状態さえ発生する。自己はすべて他との関連の中で

生きていく。人や物、大自然との間がらで、生命が維持されてゆく。だから思い通りにならず、悩

みがいろいろと生ずるのが、むしろあたりまえなのである。悩みは苦難にも通ずる。

どこがどうなつて悩みが生ずるのかと、これを客観視し、その原因をさぐり、障害を克服しようとする。そこにこそ進歩があるので

ある。悩みこそ、人生の妙味の源泉である。

（単行本『つねに活路あり』より）